事例1

えりも町立庶野小学校

学級形態：通常学級、特別支援学級
活用場面：朝学習、家庭学習、休み時間
老人クラブとの交流会　など

Q コグトレオンラインの導入の経緯・背景を教えてください。

杉山 一彦 校長先生

もともとは特別支援学級において、紙のコグトレを実施していましたが、一人一台端末導入の時期にオンライン版の情報を得て校内で共有しました。その結果、まずは自費で購入し、一年間試用してみることにしました。特別支援学級の児童にも使わせてみて、児童の反応や感想、教師の見立て、今後の展望などを検討し、令和5年度からはPTA予算で全校児童で扱うことを決定し、現在も使用を続けています。

Q ずばり、コグトレオンライン導入の決め手は何ですか？

次の6点が、導入の決め手です！

1. 音が出て楽しい演出がある。
2. 一人で答え合わせできる。
3. 短い時間でも高い効果が得られる（時短に繋がる）。
4. 難易度を自分で選択できる。
5. 遊び感覚で取り組めるので、継続できる。
（子どもたちがやりたくなる）
6. タッチ操作で感覚的に行える。

〔 導入した後の保護者の声 〕

「はじめはゲームをしているのかと思いましたが、学校からの説明を受けて、親子でやってみたら楽しく一緒にやれたのが良かったです。」

活用場面

基本的には10分間の朝学習で行っています。「毎週何曜日はコグトレの日」と学年で決めて使っています。内容は子どもたちが自分で選んでいます。
音量は小さくするか、ヘッドセットで聞きながら行う子もいます。
それ以外では、家庭に帰った時や学校での休み時間などで、各自が取り組みたいときに自由に使わせています。老人クラブとの交流授業で、おじいちゃんおばあちゃんと謎解きのように一緒に使ったりもしました。

紙の時は支援が必要でしたが、オンラインにすることで、子どもたちが気軽に取り組めるようになりました。
取り組んですぐに正解不正解などのリアクションがあるのがうれしいようで、正解したらもらえる花丸のために、みんな積極的に取り組んでいます。

池原 慶志郎 先生

先生たちの声

漢字を覚える力が高まったり、集中力が上がったと思う。

授業での集中力、聞き取る能力、想像する力、判断力、記憶力などの向上が見られたと感じています。

Q 今後に向けて取り組みたいこと、東京書籍に期待することはありますか？

この2年間で、子どもたちは定期的に継続して取り組んできており、高い効果を得たと感じています。高学年は充分に力がついてきており、次年度は活用しないこととしてみました。今後検証していきたいと考えています。
年度始めと年度末でどの程度認知能力が高まったのかを検証していくツールができたら、もっと効果的にコグトレオンラインを活用できるのではないかと考えており、東京書籍さんに期待をしているところです。

事例2

旭川市立西御料地小学校

学級形態：特別支援学級
活用場面：授業の最初や最後

Q コグトレオンラインの導入の経緯・背景を教えてください。

コグトレは、前任校の特別支援学級で紙の実践があり、年度途中から5ヶ月ほどコグトレオンラインに切り替えたところ、担当教員から効果的だったという反応が得られたため、現任校でも特別支援学級在籍児童を対象に導入しました。
子どもの“主体性”を育むためにも、一日の生活・学習のなかで、「自分で決める」「仲間と折り合う」という経験につながり、非常に有効なステップになっていると考えています。

Q 普段はどのようにコグトレオンラインを使っていますか？

休み時間から切り替えができない、集中が続かない子どもが多かったので、始業のチャイムが鳴ってからの5分間に取り組むようにしています。

「形さがし」では、「これしかない！」「えっ、本当？」と楽しみながら取り組んでいます。

授業の終わり5～10分の時間や、授業の隙間時間に取り組ませています。子どもたちはコグトレオンラインを楽しみにしているので、授業時間に集中することにも役立っています。

「順位決定戦」などは、少し考えさせるような内容ですが、学力面で課題のある子どもでも楽しく取り組めています。

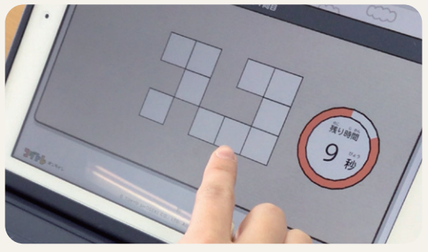
Q 導入して、子どもたちにどのような変化がありましたか？

授業のはじめに取り組むことを習慣化することで、今日の学びがスタートするというきっかけにすることができています。休み時間との切り替えができ、集中が続かなかった子どもにも話を聞く姿勢ができたように感じています。

学習に向かう姿勢に良い影響が生まれています。コグトレオンラインで花丸をもらえることが、がんばろうという意欲につながっているようです。

武沢 優輝 先生
野村 梨奈 先生
佐藤 聖士 校長先生

「見て覚える」トレーニングを通して、板書がスムーズに行えるなど短期的な記憶力の向上につながっているように感じています。



「点つなぎ」のトレーニングに取り組むことで、まっすぐ書くことができるようになるなど、書く力がついたようにも感じています。

Q 今後に向けて取り組みたいことはありますか？

「授業が嫌だ」と言う子どもにこそ取り組ませたいと思っています。
コグトレオンラインは、トレーニングの種類が多く、子どもが自分で好きなコンテンツを選んで取り組むことができるので、楽しみながら続けられるのが良いと思っています。

事例3

上砂川町立中央小学校

学級形態：通常学級（1～3年生）、特別支援学級
活用場面：朝のモジュール時間、授業の隙間時間

Q コグトレオンラインの導入の経緯・背景を教えてください。

昨年4月にNPO法人なんとなくわかる教育研究所主催のウェビナー（講師：宮口英樹先生、井阪幸恵先生）に参加し、コグトレについて知りました。どんな力を身に付けられるかということを知るとともに、コグトレオンラインについてもそこで知りました。
すぐに体験版を使ってみたところ、内容が良かったので、導入してもらいました。
現在、1～4年生と特別支援学級で使っています。

Q 紙のコグトレから変えたことで、どのような変化がありましたか？

「点つなぎ」は、紙でやると何回も書いたり消したりすることが大変でした。
オンラインでは、やり直しも手軽にでき、取り組みのハードルを大きく下げることができました。やり直しがしやすいので、横から見てアドバイスもしやすく、何回も消すストレスが減ることで、確実にできるようになったと実感しています。

Q 普段はどのようにコグトレオンラインを使っていますか？

朝のモジュール時間（15分間）を活用し、特別支援学級は毎日、通常学級では一日おきに取り組んでいます。
子どもたちが自ら端末を立ち上げて取り組む、ということを習慣化しているので、1日の学習のスタートとして頭を切り替えるのに役立っています。

Q 導入して、子どもたちにどのような変化がありましたか？

子ども自身が得意不得意を認識できるようになりました。特に特別支援学級の子どもにとっては、自分のことを知るということも重要なので、支援する教員にとっても、子どもにとっても目に見えて分かるのは大きいです。
ゲーム感覚で取り組めるので、子どもにとって良い効果が生まれています。間違ってもソフトな表現で示されるので、苦手な部分にも抵抗感なくチャレンジできています。

西尾 晴美 先生

普段の学習や生活の中で、子どもたちは苦手なことをすぐにあきらめてしまいがち。コグトレオンラインで「やってみたらできた」という経験を積めるので、苦手なことにもチャレンジする姿勢や自分に自信を持つことにもつながっているように感じています。

「聞いて覚える」トレーニングを通して、聞く力や集中力がついたと実感しています。なかなか落ち着いて取り組めなかったり、最後までやりきれない子どもが、できるようになってきました。

「記号さがし」や「さがし算」によって、計算スピードがちょっとずつ速くなっているように感じています。

Q 今後に向けて取り組みたいことはありますか？

今後は子どもへの問いかけを行いながら、身に付けさせたい力を意識して、取り組ませたいと思っています。
子どもたちがコグトレオンラインで集めた花丸を、経年で積み上げさせたいです。